こんな活動です

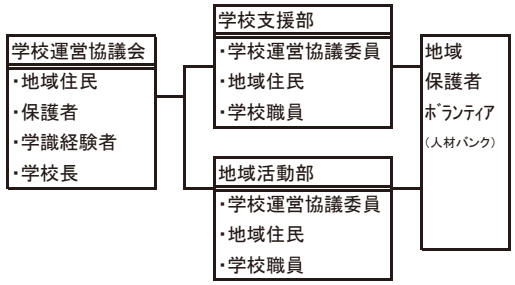
将来の担い手育て
～学校と地域が共通の願いを持って共に育む～

岐阜県白川村	活動名	関係する学校名
	将来の担い手育て	白川小・中学校

基本データ

学校支援活動		統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT 活用	企業・NPO との連携
地域未来塾		統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	ボランティア登録数	子供の平均参加人数	開始年度	国庫補助	ICT 活用	企業・NPO との連携
放課後子供教室		統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	年間開催日数	開始年度	国庫補助	ICT 活用	企業・NPO との連携
		実施場所			学習支援	放課後児童クラブとの連携			
土曜日の教育活動		統括コーディネーター数	地域コーディネーター数	子供の平均参加人数	学習支援	開始年度	国庫補助	ICT 活用	企業・NPO との連携
コミュニティ・スクール	●	指定日					委員数	児童生徒数	学級数
		平成 25 年 10 月 1 日					12 人	小 82 中 51 人	小 8 中 3 学級

体制図



活動の概要・経緯

小学校統合により地域から学校が失われ地域教育力が低下し、学校と地域の繋がりも希薄化。村は人口減少と共に伝統芸能や文化財等の継承者不足に不安を感じる。今後の村のことを考えると、担い手となる子供たちに村への夢と誇りをがもてる機会が必要であり、同時にその担い手育てに関わる地域の教育力が重要となる。そこで地域と学校が共通の願いをもち、責任と役割を明確にして共に将来の担い手を育てていくことにした。この取組により、希薄化しつつあった学校と地域の繋がりを深め、低下しつつあった地域の教育力を再度向上させることもねらった。

● 活動の特徴・工夫

【特徴的な活動内容】

～学校教育の場、地域活動の場でそれぞれが取り組める担い手育て活動を、責任と役割をもって取り組む～

「地域行事・地域活動の見直し工夫改善」

子供たちをお客さま扱いせず、地域の一員として活躍する場の位置づけ、大人と子供の関わりを意図的に築く活動の見直しを行う。

「学校教育の場に地域の力を吹き込む」

「結タイムズ」としてふるさと学習を、「夢タイムズ」としてキャリア教育を、「あいタイムズ」として英語学習を地域と連携し進めている。３つの学習を関連付け、より深く学べるカリキュラムを工夫する。英語学習では、ふるさと学習と関連付け、英語で地域を紹介する活動を取り入れていく。また、授業以外でも、民踊指導、クラブ活動講師、ゲストティーチャー等の「白川びとから学ぶ」と題した地域主体の学びの時間を授業以外の枠で１５分間設け、キャリア教育に繋がる学びを定期的に位置付ける。

【実施に当たっての工夫】

①共通の願い、願う姿に向けた活動内容、活動の責任と役割などを明確にし、CS の基盤を固める。また、常にねらいや目的に立ち返り活動を進める。
②地域活動部拡大会議として地域行事に関わる方を集めた大会議を行うなど、地域の主となる社会教育団体も共通の願いを確認し取り組む。
③学校教育の場にどのような地域の力を吹き込めるか部会で熟議し人材バンク等を整備する。
④成長していく子供たちの姿を、学校と地域で確認し合い、CS の価値や意味を実感してもらう。

「白川びとから学ぶ」
川魚の捌き方編

● 事業を実施しての効果・成果

・子供たちが村について学び考える機会が増えたことや、地域の中で活躍する場が増えたことで、村を思う気持ちが高まり進んで貢献する姿が増えてきた。
・学校と地域が共通の願いをもち取り組んでいることで、どの場においても成長した子供たちの変わらぬ姿が見られるようになってきた。
・担い手育てとして地域の方が積極的に学校教育に関わる機会が増え、「協力」ではなく「責任もって育む」姿が多く見られてきた。
・子供を核とした地域行事の見直しが広がり、地域でどのように責任をもって子供たちを育んでいくべきか考え実践する姿が増えてきた。
・地域力による子供たちの成長を教職員が実感できた。そのため更なるステップとして、ふるさと学習カリキュラム作りを協働で進めている。

「地域行事・活動改善」
女性会ぞうきん縫い作業編

● その他

小・中一貫した教育をめざし、小・中学校合同の学校運営協議会を立ち上げ活動を行っている。
平成 29 年度から義務教育学校としてスタート予定。